

学校関係者評価委員会

日時：令和4年6月11日（土）13：00～14：30

場所：出雲医療看護専門学校 101 教室

出席者：今市コミュニティセンター長 打田祥一

島根県看護協会理事 原徳子

島根県臨床工学技士会長 福田勇司

山陰言語聴覚士協会理事 西本祥久

島根県理学療法士会 石田修平

保護者代表 湯座奈央

卒業生代表 中尾靖

橋本学校長 神田副校長 今村次長 内井事務部長 落合教務部長

（欠席：出雲西高等学校校長 吉田英司）

議事進行：原（委員長）

議事録作成：加藤・鎌田（出雲医療看護専門学校）

内井：本日多忙な中時間取っていただきありがとうございました。本日議員 13 名のため過半数出席であり過半数以上のためこの委員会を開催させていただく。

本来であれば委員長が議長として対応するため今年度は委員の更新もあり事務局が司会を進行する。90 分と短い時間であるが貴重な意見を賜りたい。

橋本：新型コロナウイルスのおり学校評価関係者委員会にご参加いただき感謝を申し上げます。2014 年に立ち上げ今年で 8 年目となる。職業実践専門課程は職業における実践的なかつ専門的な能力を育成することを目的としている。専攻分野における実務に関する知識技術及び技能について組織的な教育を行うものを文部科学大臣が認定し証明することにより専門学校専修学校における職業教育の水準の向上維持をすることが目的である。本来はそれぞれの学校では自己点検自己評価委員会を設けて学校の外部の方々と意見を取りまとめそれをもとに学校評価委員会の方々と一緒に評価をいただく委員会となる。是非忌憚となる意見をいただきながら学校も成長していきたい。コロナ禍の折学生の対面する能力が低下しているかもしれないが学校の責任者もいるため意見を賜ってもらえればわかりやすいと思う。忌憚のない意見をいただき今年度令和 4 年度に改正しながら前に進みたいと思う。今日は短時間ではありますが、よろしくお願ひします。

学校責任者挨拶

今村：事務局次長の今村です。先ほど学校長より職業実践専門課程の話があったが、専門学校は平成 19 年より自己点検自己評価は義務化されている。学校評価関係者委員会は努

力義務であったが職業実践専門課程を申請するときに委員会の方々からご意見を賜り学校の運営と教育課程に反映していくということが義務化されている。職業実践専門課程には必ず1年に1回、多いところでは3回開催されている。ご意見をいただいて改善していきたい。自己点検自己評価として令和3年度の学校運営について振り返りをしているのでご意見をいただき令和4年に活かしていくことが主たる目的である。

大項目は10項目、中項目が37項目、小項目が65項目ある。それぞれを学校職員が評価をして最終大項目の評価を1~4点を付けている。

委員長選出

出雲医療看護専門学校の委員会規定により立候補や推薦としている。立候補がないため事務局が一任。島根県看護協会理事原委員に一任。

委員自己紹介

今市町コミュニティセンター長打田委員→山陰言語聴覚士協会理事西本委員→島根県理学療法士会理事石田委員→出雲医療看護専門学校看護学科1期生卒業生中尾委員→看護学科保護者代表湯座委員→島根県臨床工学技士会会長福田委員→副学校長神田→教務部長落合→事務部長内井

出雲西高校の吉田理事は欠席

原：自己点検自己評価をもとに事務局から説明をしてもらい意見を交換していく。

今村：教育理念、目的、育成人材像の大項目評価4。小項目、育成人材像が定められているか、業界との人材ニーズに適応しているか特色のある教育活動をしているか、社会のニーズを踏まえた将来構想を抱いているかなどの評価である。2021年度の学生便覧5~13ページまでそれぞれの学科の学生人材像について目的目標、資格について定めている。本校については学園の理念に基づいて実学教育、人間教育、国際教育に基づいてそれぞれの学科でどのような医療職種の従事者を育てるために目標を立てている。コロナ禍の中で運営となると難しいものもあるが、学生もちろん教職員もオンラインや対面型を併用しながら指導をしている。特色のある教育活動では海外研修があったり、いろんな学校行事を通じて学科間を越えた学生同士の関わりもあったが延期であったり国内研修プログラムに変更したりと様々な問題をクリアするような形で行っている。今後はオンラインをやってよかったことや対面の方がよかったことなどを踏まえて今よりも学校運営ができるように進んでいきたい。本校は10年目を迎えるため今後10年後を考えると今のままではいけない。以前よりはコロナ禍であるが外に出ることができるようになるため学生の不利益にならないようにしていきたい。業界の方々にアドバイスをいただきながらうまい実習指導の在り方や実習巡回の在り方を学ばせてもらい5年後10年後を見据えた形で教育課程を行

っていきたい。

学校運営

今村：大項目の評価 4 中項目が 6 個、小項目が 7 個ある。学校の運営方針、事業計画を定めているか、組織運営を行っているか、学校運営のための組織を整備しているか、人事給与に関する制度を整備しているか、意思決定システムを整備しているか、情報システム化に伴う業務の効率化を整備しているかを定めている。大阪滋慶学園では 5 つの数字を達成しようと目標を定めている。入学率を上げ退学率を抑え、就職内定率 100%、学費未納者を 0 とし国家試験合格率 100%を目標として教育を行っている。チーム医療から学科間の連携が必要となるため委員会を整備し、物事を動かしていく。意思決定システムを整備しているかなどは役職者だけの会議があったり教職員全体の会議があったり、それぞれの学科から委員を出して活動して区委員会活動もある。コロナが始まる前に比べ学校の中の活動は対面がメインとなるため抑えられているが今後は前の状態に戻れるように日々努力していきたい。最後に情報システムの所だけが小項目の評価 3 になっている。教職員だけで会議を行う場合 Microsoft365 など画面を通して会議を行うが整備中である。オンライン授業では ZOOM を使って授業をしている。Teams では責任者がいない状態であるが会議としては使いやすいが授業ではホストがないため誰かがいたずらをするとうまってしまう。まだまだ完成していないところを踏まえ昨年度について評価 3 となる。

教育活動

落合：大項目の評価は 4、中項目において 3、小項目で 3 となっているのが教員への資質向上への取り組みを行っているか、教員の組織体制を整備しているかである。現状として学科毎の教育理念の 3 つのポリシーを設定しており、これらに沿った教育・実習方針を定めている。これに基づく年間教育プログラムを取り組むことにより知識技術の習得や国家試験及び就職に対しての成果が出るような取り組みを行っている。教育課程の編成においては国家試験系の養成において指定規則に基づいて組み立てられているため、その内容を授業形態や教育内容、学習指導に有効的に活用している。指定規則については各学科に改定があり、理学療法士学科が行った。今年度は看護学科、2023 年には臨床工学技士学科が指定規則の改定に伴いカリキュラム変更がなされる。授業評価に関しては筆記試験、実技試験以外でも授業内での小テスト、復習予習を交えたレポート課題などで学生の習得度の確認をしている。また学生の到達度の向上を目的とした授業の振り返りを徹底している。キャリア教育については教務とキャリアセンターの連携によるキャリア形成づくりの教育プログラムを作成して指導している。成績評価については今年度も新型コロナウイルス感染症によって成績評価や単位認定に不利益にならないように配慮している。資格の取得に関しては各学科が対策などの情報共有をして 1 年次から行っている。入学者に関してはプレカレッジやオンラインの通信教育で対応して基礎固めをしている。教員組織では評価 3 になったが教員不足の学科に関しては採用の計画を立てている。教員の質の向上について

学園の研修の参加や各業界が行っている勉強会に参加し、教育力の向上に努めている。教育活動の今後の課題と対策は目標設定の振り返りと修正が毎年必要である。学生の単位習得目標を踏まえた到達レベルの修正も必要である。授業毎の評価ができていないため今後教員間で行う必要もある。外部講師の評価もフィードバックが必要である。

成績評価については3年前よりGPA導入し、学生能力の把握に努めている。教育力向上に向けた研修や自己研鑽が必要である。

教員組織は教員要件を満たすためと教育力向上のための教員教育育成プログラムを作成し、教員研修を実施の検討をしている。

学習成果

落合：大項目4 中項目小項目で卒業生の社会的評価を把握しているかが3である。現状についてキャリアセンターが一人体制となっているため3年部の教員が始動している。求人の新規開拓が課題となっている。

昨年度よりも国家試験合格率は向上しているが不合格者に対する対策強化が必要となってくる。卒業生の社会的評価に関しては就職先に対する動向調査やリカレント教育の準備を進めている。今後の課題と対策は就職についてキャリアセンターと教務が連携し初年度教育を徹底していく。国家試験対策については前倒しを考えている。

卒後教育の教育開発を行うにあたり同窓会の開催や学ぶ機会を増やしリカレント教育につなげていく。今後はICT教育の導入により通信環境の変化でオンラインシステムの構築に力を入れていきたい。

学生支援

内井：大項目評価3 小項目に関して就職支援など12項目ある。その中で小項目に2がついている。留学生の受け入れの整備の項目では本校の対応がないが学園として受け入れているため参考にしながら受け入れ態勢を構築していく。産学連携による卒後再教育プログラムの開発実施に取り組んでいるか、社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているかが2である。卒後の再教育プログラムの開発と実施に関しては同窓会組織であるがなかなか進んでいかない。全体として難しいため学科単位を踏まえて同窓会組織から学びの実施ができたかと考えている。

リカレント教育については社会人のニーズというところであるが学校としてまだまだである。臨床工学技士専攻科を実施して社会人の学び直しも検討している。

昨年までは専攻科もないため評価を2としている。

就職に関しては就職フェアを実施しており、各業界からきていただき説明をしてもらっている。中途退学の対応や学生相談であるが入学オリエンテーション時キャリアサポートアンケートを実施しその結果を用いて個別対応している。学習支援や生活のサポートをサポートしているため退学率は低く抑えられている。

学生生活

内井：経済的な支援は日本学生支援機構を利用している学生は 15%を合わせ半分以上の学生が奨学金制度を利用している。学費については個別対応している。

健康管理

内井：毎年 4 月に検診を実施。100%実施しているが再検査のフォローがしきれていない。

教育環境

内井：大項目 3、小項目が 4 つあるが 3 の中で学外研修やインターンシップ、海外研修の実施を整備しているかが 4 である。海外研修はアメリカに行けないがオンラインをつないで実施した。施設設備で 5 か年計画の中 10 年経過するため修繕が必要となってくる。大きな修繕計画もあるため予算を見ながら実施していく。

教育要項について実習に関わる備品も入れていきたい。

防災・安全管理

内井：年 1 回実施している。11 月に実施したが県から地震対策があったため併せて行った。地震と火災を踏まえた防災対策を実施していきたい。

コロナについて

感染対策委員会を立ち上げ感染防止や対策を検討しながら学生に対して感染防止の実施を行った。そのほかの基準の変更もあればホームページを通じて保護者や地域の皆様に発信している。

衛生管理については今後対策として安全管理衛生対策として進めていきたい。

学生募集

内井：大項目 2 小項目 6 つあるが 2 つ目の学生募集を効果的に行っているかを 2 としている。

学生募集活動を効果的ということなので昨年全学科募集定員が 210 名、入学者が 124 名、やはり充足ができなかったということで 2 にしている。

入学選考に関する実績を担当して授業改善に活かしているかに関しては、実績を把握しているが AO 入試の内容を変更し、育成して入学してもらうことを目的に始めたが入学の選考とプレカレッジ、入学前教育のシステムが連動していないため 2 としている。

学生募集活動については広報担当者が高校訪問時報告をしたり高等学校の先生のニーズにこたえた職業体験をしたりと活動している。来校していただき学校を知ってもらい入試に繋がらたらと思っている、学費に関しては募集要項やホームページにアップしている。個別で連絡いただいたものは必ず対応をしている。

財務

今村：大項目の評価は 4 としているが法人として考える財務と本校として考える財務と 2 つある。中項目の 1 つ目の財務基盤に関しては中項目小項目 3 としているが本校だけを考えると 2 という状態としかならない。入学の定員を満たしていない。学校は 1 回 4 月に収めていただく学納金で運営しているが定員を満たしていないため学校として安定しているとはいえない。大阪滋慶学園としては問題なく安定している。

監査などは適切に運用しているため大きな問題はないが、学校として入学生を集め退学者を抑えることで経営的に早く安定していきたい。評価が 3 であるためまだまだ改善の余地がある評価になる。

法令遵守

今村：大項目 4、中項目は関係法令、設置基準の遵守、個人情報、学校評価、教育情報の公開を 4 としている。関係法令は医療職者を育成するための法律があるため遵守している。学校としても設置基準があるため適切な設備で行っている。個人情報保護に関しては入学制だけではなく教職員の情報などをインターネットに接続していない独立のサーバーで漏れないように整備している。学校評価に関して自己点検自己評価を行っているが次年度に活かしているかはまだまだ改善があるが、行っているか公表しているかのところであるため 4 を付けている。次年度に向けてよりよい学校運営教育活動をしていきたいためご意見をいただきたい。

教育の情報公開ではそれぞれ学校で活動をしていくとなると国家試験の合格率や就職の情報が出来上がってくる。高等学校や在校生などに積極的に公開していきたい。学園新聞を卒業生や保護者の皆様に送ることで学園の情報や学校の情報を発信していく。ホームページにどこまでの情報を載せていくかは今後の課題となる、学校としては学生が頑張っただけの結果を出してもらっているので私どもの教育が間違っていなかった、いい思いをしてもらったという気持ちもたくさんあるため学園新聞では保護者の方々に、ホームページではこれから入学される皆様や業界の方々に公開していきたい。

社会貢献・地域貢献

内井：大項目は 3 で小項目は 3 つである。社会貢献・地域貢献はなかなかコロナ禍でできないものもあったが学校で職域接種をしたということもあるため 4 とさせてもらった。集団接種も 1000 人の方に来てもらい実施している。

海外研修に関して本校の学生が出向いていくというところもあるが、本校の受け入れに関しては交流などの面で検討が必要。

ボランティア活動は毎年行っている。昨年コロナ禍で中止のものが多かった。その中でも本校で地域の皆様への健康講座、小学生の皆様への職業体験などを実施した。今後は学生

が主体的にボランティアにできるように学校としても後押ししていきたい。

原：委員の皆様よりご意見をいただきたいと思う。

原：令和2年3年について現場実習ができなかったのではないと思うが、実際に実習に代わる演習などで工夫されているところもあったと思う。病院と話し合いを持たれたとも聞いている、具体的にどのようなことを行ったか。

落合：病院での実習ができにくい状況であった。昨年は緩和されてきたため半分くらいは病院で実習ができたが後は学内でシミュレーション教育を取り入れ教員の方で行った。病院からリモートでつないでもらい、実習担当者に話をしてもらった、学生が話を聞いた後に考えながらレクレーションを行い、施設に持っていくなど取り組みを行った。3週間ある実習は半分ずつ病院に行かせた。

打田：コロナになる前は今市でも学生に出かけてもらってボランティアをしてもらったがコロナに入りなかなかできなくなった。昨年はコロナの中でもイベントを開催している。地域と連携して学生がボランティアしてもらうことは重要と思う。是非工夫してもらいたいと思っている。

国家試験の合格率であるが理学療法士などは低く感じる。最終的には全員合格できるものなのか、難しいのか。退学者の数字が4%は国家試験不合格で退学なのか人間関係で退学なのか併せて教えてほしい。

落合：国家試験の合格率に関して学生の学力の問題や教員の取り組み方もあるが100%になるのは難しい。不合格になった学生は責任をもって対応している。次の年度も国家試験に向けての勉強も4月にどうするかを決め始めている。今年ダメでも来年合格するような取り組みをしている。退学に関しては国家試験に合格しないからやめるというわけではなく1年次学力不足やメンタル低下などで退学につながってくる。キャリアサポートアンケートの実施により学生の精神状態を分析し個別対応を行っている。早めに対応するようにしているが退学率を0にすることが難しい。卒業できないから退学するよりも1年次の退学率が大きいと感じている。

石田：学習成果の所にある卒業生の社会的評価について各職能団体に所属することが社会的評価につながるのではないかと考える。理学療法士では5年かけて登録理学療法士となり社会的に認められた理学療法士として認めてもよいという仕組みが今年度からできた。島根県でも登録できるようにサポートできるような体制を行っていきたい。離職だけではなく職能団体に所属していることもつながるのではないと思う。

教員の資質向上でも職能団体に所属し資格を目指すのもよい評価になると思う。

落合：今後は情報を早めにキャッチしながら調査をしていきたい。

今村：学生会員として登録することはできるのか。

石田：学生会員はないが島根県理学療法士会の中にビジョンがある。島根県理学療法士会はこのような会を目指したいとあるが学生も中に入り関わってもらいたい。学生の意見をもらいながら進めていきたい。

今村：大阪の社会福祉では学生会員制度があり、所属していると社会に出たときにそのまま所属となる。学生会員の特典を付けてみてはどうか。

原：学生にインフォメーションしてもらえれば、将来像としてこのような資格を取りたいということも芽生えるため、キャリアデザインにつなげてもらいたい。

神田：看護連盟や協会と連携をとって看護師になるために学生教育にも力を入れている。本校にも学生加入の願いが来ている。先輩看護師に見てもらい指導をしてもらうことで学生の評価も高かった。教職員も理解して看護協会に限らずもう少し情報をとっていく。高校の教員も看護師になっておけば将来安泰だなど思われている。大学の方に入学生が行ってしまうが広報活動も含めて職種理解も高校の先生方にも理解してもらいながらマッチングした将来像を形成しなければならない。高校にも目を向けてもらいながら一体化となって取り組みが進んでいけば退学率や離職率も減るのではと思った。

西本：前年度の評価は 2・3 が多かったが昨年度の評価は向上している。何か取り組んでいるのか。

今村：学校運営ではコロナがいい方に影響したこともあるか。大阪滋慶学園の中で出雲は初めてできた学校であるため大阪とのリレーションも取りにくいのが外に向いていたことが中に向いて結果につながったと思う。良いところを吸収して出雲ならではのものを創っていききたい。前年度学校運営が低いのが初めてコロナを迎えててんやわんやしている中で対応していた。

福田：前年度より評価が上がっていることは説明で理解できているが一番低かった学生募集について力を入れていかなければならない部分であると考えている。少子化に伴い学生が減っていくことが予測されているがどのように2を改善していくのが詳しく知りたい。

内井：昨年が 150 名近くの募集があったが、県外に流れたイメージがあったが、前年度は入学される学生は島根県、広島県北部、鳥取県などもあったが昨年度は県外からの入学生が減少した。エリアを見て広報活動や高校訪問を開始していきたい。鳥取や広島北部にも行けているため今年度来校者も増えてきている。エリアを見直すのと看護学科、理学療法士学科入学定員がもう少しであるため来校者が第一希望となるように取り組んでいく。臨床工学の認知度を向上し定員 30 を目指していけば学校全体の定員をクリアしていける。長期間のものもあるがしっかりと対応していきたい。

福田：臨床工学技士の魅力は協会でも掲げているが出雲校の一番の魅力は具体的に何か。

内井：来校者や入学された方のアンケートを見ると雰囲気や学生と教員の近さであると考えられる。しっかりと来校してもらえそうな仕組みを作り、伝えていきたい。

福田：オンラインの形も残っていくと思うので来校もよいがオンラインを使ったメリットもあるため授業風景を流すとか新しい角度で物事を発信することも考えてほしい。

湯座：オンラインでも先生方がしっかり授業をしてもらっているのありがたいと感じている。オンラインも踏まえてどのように振り返りをしているのか。

神田：科目ごとによって違うが先生方がどのように振り返りをしていくかを決めている。

中尾：国際教育などを学校で学んだが出雲では使わないと思っていた。しかし出雲ではブラジルの方も多く対応することがあった。国際教育に関してアメリカだけではなく地域の特徴に合わせた世界観が必要になるのではと感じる。

今村：美作ではベトナムの方が多いため異文化コミュニケーションを取り入れエリアで落とし込んでいっている。出雲も取り組んでいくと面白いと思う。

落合：異文化コミュニケーションというところで国際看護もあるが地域に出て海外の方と触れ合う研修を取り入れていけたらと考えている。

原：卒業された方が相談できるような仕組みがあるか。

落合：仕組みはないが担任だった先生に電話をしたりキャリアセンターを訪ねたりと卒業生によって窓口が変わってくる。訪ねやすい環境を作っている。

原：卒業生としてこの学校誇れるところはどこでしょうか。

中尾：卒業してからも学校に寄っている同級生がいることは聞いている。教員と学生との関係がよく相談しやすい環境と考えている。

原：ご意見をいただきありがとうございます。

神田：本日はありがとうございます。昨年度の評価は次長が説明した通り with コロナで他の学校との連携を図りながらやってきたのが成果になっている。出雲校が特色とカリキュラムの変更と職能団体や地域とのつながりを見える形でやっていく必要があると改めて気づいた。会議以外の場でも意見を賜りたい。

橋本：7/10 はできていると感じているが残りは学生の観察力を養えばいい結果につながると思っている。学生募集は現在改革中であるためよくなってくると思っている。産学連携が普通のような教育になれば強くなると感じている。職能団体の先生方も遠慮せずに意見を言ってほしい。